

授業科目名： 特別支援教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 斎藤 遼太郎
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援教育の定義と理念、教育の場の特徴、法制度、教育制度システム等に関する事項について学修する。本授業を通して、特別支援教育や特別支援学校に関する基礎的・基本的な事項を理解する。			
授業の概要			
特別支援教育の理念や制度、特別支援学校や特別支援学級などの特別支援教育における多様な学びの場について理解する入門的な授業である。本授業では特別支援学校の教育はもちろんのこと小学校等における特別支援教育についても網羅的に学修する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 特別支援教育の理念			
第2回：特別支援教育の歴史：特殊教育から特別支援教育への転換と発展			
第3回：特別支援学校の対象、目的、学部、設置義務			
第4回：特別支援学校における地域のセンター的機能			
第5回：特別支援学校の教育課程と自立活動			
第6回：特別支援学級の制度と教育内容			
第7回：通級による指導の制度と教育内容			
第8回：重複障害者等に関する教育課程の取扱いと訪問教育			
第9回：関係機関との連携と就学支援			
第10回：個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用			
第11回：小学校等の支援システム（1） 特別支援教育コーディネーターと校内委員会			
第12回：小学校等の支援システム（2） 交流及び共同学習と障害理解教育			
第13回：国際生活機能分類(ICF)と国連・障害者権利条約			
第14回：障害者の権利条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念と共生社会の実現			
第15回：日本における近年の特別支援教育政策の動向			
定期試験			
テキスト			
特になし。授業者が独自に作成したワークシートをもとに授業を進める。			
参考書・参考資料等			

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示、文部科学省)

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月、文部科学省)

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月、文部科学省)

教育小六法(勝野正章ら編、学陽書房)

学生に対する評価

規定の出席数以上の者に対して、定期試験(60%)、毎回の授業後の小レポート(40%)の成績に基づき評価を行う。

授業科目名： 世界の特別支援教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 斎藤 遼太郎
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
国際的な障害の定義と理念や障害を定義する診断マニュアル・法律といった事項について学修する。本授業を通して国際的に取り組まれているインクルーシブ教育システムについて理解する。			
授業の概要			
国際的な障害の定義は国際連合やアメリカ精神医学会等、様々な機関において定められている。本授業では、国際的な障害の定義や理念について、DSM-V、ICD-11、AAIDDを取り上げ、整理していく。また、そもそもとしての障害の考え方を、同じく国際的な条約である障害者の権利に関する条約やICFの考え方から学習していく。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 世界における障害児教育とは			
第2回：DSM-Vによる障害の診断—LD、DCD—			
第3回：DSM-Vによる障害の診断—ADHD—			
第4回：DSM-Vによる障害の診断—ASD—			
第5回：ICD-11による障害の診断—LD、DCD—			
第6回：ICD-11による障害の診断—ADHD—			
第7回：ICD-11による障害の診断—ASD—			
第8回：世界における知的障害の捉え方—DSM-Vから—			
第9回：世界における知的障害の捉え方—ICD-10から—			
第10回：世界における知的障害の捉え方—AAIDDから—			
第11回：ICFによる障害の考え方（1）—ICIDHとの比較から—			
第12回：ICFによる障害の考え方（2）—ICFを用いたアセスメント—			
第13回：障害者の権利に関する条約（1）—インクルーシブ教育システム—			
第14回：障害者の権利に関する条約（2）—合理的配慮の考え方—			
第15回：講義のまとめにかえて 今後の日本が目指す特別支援教育の方向性			
定期試験は実施しない（最終レポートを課す）			
テキスト			
特になし。授業者が独自に作成したワークシートをもとに授業を進める。			

参考書・参考資料等

DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引（高橋三郎・大野裕監修、医学書院）

知的障害：定義、分類および支援体系（米国知的・発達障害協会用語・分類特別委員会編、公益社団法人 日本発達障害連盟）

学生に対する評価

規定の出席数以上の者に対して、最終レポート（80％）と毎回の授業後の小レポート（20％）の成績に基づき評価を行う。

授業科目名： 障害と児童福祉	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 斎藤 遼太郎
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
障害児・者福祉の定義と理念、障害児・者の生活を支える法制度等に関する事項について学修する。本授業を通して、障害児・者福祉の現状と課題及び教育との関係について理解する。			
授業の概要			
障害児・者が生活を送る上で、様々な法律でその支援が講じられている。本授業では、各種法律を基に、障害児・者を支える福祉制度について概観していく。また、児童発達支援や放課後等デイサービス等障害児福祉施設の特徴について学修し、教育との関係について学んでいく。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 障害児・者を取り巻く福祉制度とは			
第2回：今日の障害児・者福祉の現状			
第3回：障害者基本法			
第4回：障害者総合支援法			
第5回：障害者差別解消法と合理的配慮			
第6回：児童福祉法と子ども支援			
第7回：子ども・子育て支援法			
第8回：発達障害者支援法と発達障害の定義			
第9回：発達障害者支援法と発達障害者支援センター			
第10回：児童発達支援における障害児福祉			
第11回：放課後児童クラブ及び放課後等デイサービスにおける障害児福祉			
第12回：障害者入所施設における障害児福祉			
第13回：就労移行支援と就労継続支援			
第14回：教育と福祉の関係			
第15回：講義のまとめにかえて 今後の必要な障害児福祉とは			
定期試験は実施しない（最終レポートを課す）			
テキスト			
特になし。授業者が独自に作成したワークシートをもとに授業を進める。			
参考書・参考資料等			
福祉小六法（社会福祉法人大阪ボランティア協会＝編集、中央法規）			

障害児通所支援ハンドブック（宮田広善・光真坊浩史編著、エンパワメント研究所）

学生に対する評価

規定の出席数以上の者に対して、最終レポート（80％）と毎回の授業後の小レポート（20％）の成績に基づき評価を行う。

授業科目名： 特別支援教育総論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 椎木 久夫 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 多様な障害のある子どもたちの実態及び課題について基礎的な理解を深める。			
授業の概要 障害のある子どもたちは、特別支援学校のみならず、保育所や幼稚園、小中学校や高校の通常の学級でも多く学んでいる。そのため、特別支援学校の教員だけでなく、一般の幼保小中高の教員も障害のある幼児児童生徒についての基礎的な理解をしておくことが大切になってきている。この講座では、いろいろな障害のある子どもの実態と課題について、これまでの実務経験から得た学びを活かし、特別支援教育を必要とする児童生徒の基礎的な理解と支援方法についての理解を深める。			
授業計画 第1回：本講座の達成目標と授業概要、特別支援教育の最近の動向と課題 第2回：知的障害の理解と教育支援 第3回：視覚障害の理解と教育支援 第4回：聴覚障害の理解と教育支援 第5回：肢体不自由児の理解と教育支援 第6回：発達障害の児童生徒の理解と教育支援 第7回：言語障害の児童生徒の理解と教育支援 第8回：情緒障害の児童生徒の理解と教育支援 第9回：病弱児童生徒の理解と教育支援 第10回：重度重複障害児童生徒の理解と教育支援 第11回：特別支援教育の今後の可能性 第12回：特別支援学校、特別支援学級の「授業づくり」 第13回：障害のある児童生徒の進路と卒業後の支援 第14回：障害児教育と人権 第15回：まとめ 特別支援教育の今後の方向性 定期試験			
テキスト 特になし。自作資料印刷配布。			

参考書・参考資料等

特別支援教育総論（加瀬進・二橋智著、放送大学教育振興会）

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示、文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月、文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月、文部科学省）

学生に対する評価

規定の出席数以上の者に対して、定期試験（50％）、毎回の授業後の小レポート（50％）の成績に基づき評価を行う。

授業科目名： 知的障害の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 久保（下山田） 愛恵、三橋 翔太 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
知的障害児の心理・生理・病理学的特徴に加え、主要な合併症や併存症などの特徴も理解する。また知的障害児が状態像が多様であるために、認知・行動面の特徴の把握が重要であることを理解し、それらを把握する方法を身に付ける。加えて、得られた情報を家族や関連機関と共有することなどの連携が重要であることを理解する。			
授業の概要			
知的障害は特別支援教育の対象の中でも、最も数が多く代表的な障害である。本講義では、知的障害の要因となる生理・病理学的特徴とともに、認知・行動面の特徴の要因となる心理学的特徴について解説する。また知的障害児によく見られる合併症・併存症についても複数取り上げ、それらの心理・生理・病理学的特徴について概観する。加えて、それらの特徴を把握するためのアセスメントの概要や、アセスメントから得られた情報を共有していくための家庭・関連機関との連携の在り方についても取り上げる。			
授業計画			
第1回：知的障害の病理学的定義に関する基礎的事項（担当：三橋 翔太）			
第2回：知的障害の心理学的特徴（1）知的機能に関して（担当：三橋 翔太）			
第3回：知的障害の心理学的特徴（2）適応行動に関して（担当：三橋 翔太）			
第4回：知的障害の心理学的特徴（3）生理・病理学的特徴との関係に関して（担当：三橋 翔太）			
第5回：知的障害児の主要な合併症・併存症の心理・生理・病理学的特徴（1）ダウン症候群（担当：三橋 翔太）			
第6回：知的障害児の主要な合併症・併存症の心理・生理・病理学的特徴（2）てんかん（担当：三橋 翔太）			
第7回：知的障害児の主要な合併症・併存症の心理・生理・病理学的特徴（3）自閉症（担当：久保（下山田） 愛恵）			
第8回：知的障害児の主要な合併症・併存症の心理・生理・病理学的特徴（4）脳性マヒ（担当：三橋 翔太）			

第9回：知的障害児の主要な合併症・併存症の心理・生理・病理学的特徴（4）精神疾患（担当：三橋 翔太） 第10回：知的機能のアセスメント（1）ビネー式知能検査・ウェクスラー式知能検査（担当：久保（下山田） 愛恵） 第11回：知的機能のアセスメント（2）認知・神経心理学的検査・発達検査等（担当：久保（下山田） 愛恵） 第12回：適応行動のアセスメント（3）S-M社会生活能力検査・Vineland II（担当：久保（下山田） 愛恵） 第13回：知的障害児の心理・生理・病理学的特徴の共有（1）家族との連携（担当：久保（下山田） 愛恵） 第14回：知的障害児の心理・生理・病理学的特徴の共有（2）関連機関との連携（担当：久保（下山田） 愛恵） 第15回：まとめ（担当：久保（下山田） 愛恵） 定期試験
テキスト 知的障害児の心理・生理・病理：エビデンスに基づく特別支援教育のために、 勝二博亮 編、北大路書房
参考書・参考資料等：文部科学省（平成29年4月公示）特別支援学校小学部・中学部学習指導要領
学生に対する評価 試験（85％）・授業内でのワークシート（15％）

授業科目名： 肢体不自由の心理・ 生理・病理		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石田 修、勝二 博亮 担当形態：オムニバス
科 目		特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：肢)		
授業のテーマ及び到達目標				
肢体不自由の特別支援学校に在籍する子どもたちの主な原因疾患に関する心理・生理・病理学的知識について理解できる。さらに、これらの知識に基づいて学校生活上で生じる様々な問題について、家庭および医療機関との連携と絡めながら、基本的な対応方法を考えることができる。				
授業の概要				
肢体不自由の特別支援学校に通う子どもたちの原因疾患を知る前に、感覚・運動・認知機能の発達に関わる生理学的知見について論じていく。その後、各原因疾患について生理・病理的知見を述べるとともに、原因疾患の多くを占める脳性まひについて学校生活で生じる問題に関する基本的対応に関して、家庭および医療機関との連携と絡めながら述べていく。				
授業計画				
第1回：シラバスを用いたオリエンテーション（担当：石田 修）				
第2回：運動のしくみ（一次運動野・高次運動野）（担当：勝二 博亮）				
第3回：運動のしくみ（大脳基底核・小脳）（担当：勝二 博亮）				
第4回：感覚・運動の発達（反射）（担当：勝二 博亮）				
第5回：感覚・運動の発達（反応）（担当：勝二 博亮）				
第6回：肢体不自由の主な原因疾患（担当：勝二 博亮）				
第7回：脳性疾患（脳性まひの定義・原因）（担当：石田 修）				
第8回：脳性疾患（脳性まひのタイプなど）（担当：石田 修）				
第9回：脳性まひにおける姿勢と運動制御への支援（担当：石田 修）				
第10回：発達と運動のアセスメント（担当：石田 修）				
第11回：脳性まひにおける認知特性とその支援（PVLの心理的特性と学習支援）（担当：石田 修）				
第12回：肢体不自由児における家庭や医療機関との連携（担当：石田 修）				
第13回：その他の肢体不自由の原因疾患（脊椎・脊髄疾患）（担当：石田 修）				
第14回：その他の肢体不自由の原因疾患（筋・神経疾患、骨・関節疾患など）（担当：石田 修）				
第15回：まとめ（担当：石田 修）				

定期試験は実施しない
テキスト 知的障害児の心理・生理・病理（勝二博亮（編），北大路書房）
参考書・参考資料等 特別な支援を必要とする子どもの理解と教育（茨城大学教育学部障害児教育教室（編），かもがわ出版）
学生に対する評価 期末レポート（50％）およびコメントペーパーの記述内容（50％）

授業科目名： 病弱の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 勝二 博亮
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：病)		
授業のテーマ及び到達目標			
病気の子どもに関する心理的特性や病気の生理・病理学的側面に関して理解するとともに、これらの知識に基づいて総合的に病気を理解することができる。さらに、病弱児の特性やさまざまな情報から彼らの状態を把握し、社会性や認知特性の視点から、教員として彼らと接する上での心構え（家庭や学校、医療、福祉および保健機関との連携の重要性を含む）について考察できる。			
授業の概要			
病気の子どもの病態は病気により様々であることから、特別支援教育で最も関わりの深い病気をいくつか挙げて、その生理・病理的側面を述べるとともに、病気の子どもがもつ心理的特徴についてもあわせて概説していく。さらに、彼らをサポートしていく教員として、どのような心構えが必要であるか、考える機会を提供したい。			
授業計画			
第1回：シラバスを用いたオリエンテーション			
第2回：病弱児の現状			
第3回：小児がん（生理・病理的側面）			
第4回：小児がんの子どもへの配慮（心理的側面の把握とその対応）			
第5回：気管支喘息（生理・病理的側面）			
第6回：気管支喘息の子どもへのその配慮（心理的側面の把握とその対応）			
第7回：糖尿病（生理・病理的側面）			
第8回：糖尿病の子どもへの配慮（心理的側面の把握とその対応）			
第9回：心疾患（生理・病理的側面）			
第10回：心疾患の子どもへの配慮（心理的側面の把握とその対応）			
第11回：腎疾患とその配慮			
第12回：膠原病とその配慮			
第13回：心身症とその配慮			
第14回：家庭や学校、医療、福祉および保健機関との連携にむけて			
第15回：まとめ			

定期試験は実施しない
テキスト 特に指定しない。授業時に資料を配付する。
参考書・参考資料等 特別な支援を必要とする子どもの理解と教育（茨城大学教育学部障害児教育教室（編），かもがわ出版）
学生に対する評価 期末レポート（50％）およびコメントペーパーの記述内容（50％）

授業科目名： 知的障害と教育Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 椎木 久夫
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害児の実態、知的障害児の教育の基本的知識（教育制度、授業の作り方等）について理解する。			
授業の概要 特別支援教育に携わる教員として必ず出会う知的障害児の教育の基礎的内容として、知的障害児の理解、教育制度と機関、教育課程の仕組み、各教科等を合わせた指導や自立活動における具体的な授業の作り方等について学ぶ。なお実務経験を活かし、実際の授業実践の写真や現場の教師の支援の戸惑いや葛藤等について具体的に伝えながら授業を展開する。			
授業計画 第 1 回：オリエンテーション「最近の特別支援教育の動向」 第 2 回：知的障害児教育の現状と課題 第 3 回：知的障害児の理解（1）ダウン症候群 第 4 回：知的障害児の理解（2）知的に遅れのある自閉症スペクトラム 第 5 回：知的障害児の理解（3）自閉症スペクトラムの教育とTEACCHプログラム 第 6 回：知的障害児の理解（4）重度・重複障害児 第 7 回：知的障害児教育の学習指導要領と教育課程 第 8 回：知的障害児教育における学部間連携とカリキュラムマネジメント 第 9 回：知的障害児の授業づくり（1）「発達段階と発達課題に応じた個別の指導計画の作成」 第10回：知的障害児の授業づくり（2）「各教科の目標・内容」 第11回：知的障害児の授業づくり（3）「日常生活の指導」 第12回：知的障害児の授業づくり（4）「遊びの指導」 第13回：知的障害児の授業づくり（5）「生活単元学習」 第14回：知的障害児の授業づくり（6）「作業学習」 第15回：知的障害児の授業づくり（7）「自立活動」 定期試験			
テキスト 特になし。自作資料印刷配布。			

参考書・参考資料等

知的障害特別支援学校の自立活動の指導（全国特別支援学校知的障害教育校長会著、ジアース教育新社）

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示、文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月、文部科学省）

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月、文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月、文部科学省）

学生に対する評価

規定の出席数以上の者に対して、定期試験（50％）、毎回の授業後の小レポート（50％）の成績に基づき評価を行う。

授業科目名： 知的障害と教育Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 椎木 久夫
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害児の「授業作り」に必要な基礎的知識（実態の把握・達成目標の理解・個別の指導計画の作成等）について理解を深める。			
授業の概要 「知的障害児の教育Ⅰ」において学習した教育体制、各教科等を合わせた指導等の内容に引き続き、教科指導とその他付随する関係領域に焦点を当てて、これまでの実務経験を活かして知的障害の授業作りに必要な指導内容（理論、根拠、効果等）について理解を深める。特に自立活動と関連付けた授業作りを行う。また、知的障害児に対するICTの活用についても学修する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 講座目標 授業計画 特別支援教育について 第2回：教科指導①「国語～ことば～」(学習指導案の作成を含む) 第3回：教科指導②「算数～かず～」(学習指導案の作成を含む) 第4回：教科指導③「体育～うんどう～」(学習指導案の作成を含む) 第5回：教科指導④「図画工作～描く～」(学習指導案の作成を含む) 第6回：授業作りと教材の工夫 (ICTの活用を含む) 第7回：知的障害児教育の評価と改善 第8回：特別支援学級の教育と実践 第9回：交流及び共同学習 第10回：知的障害児と気になる行動 第11回：知的障害児の思春期 第12回：就学前の特別支援教育(乳幼児期) 第13回：特別支援教育におけるキャリア教育 第14回：卒業後の支援～就労と福祉～ 第15回：特別支援教育と人権 まとめ 定期試験			
テキスト			

特になし。自作資料印刷配布。

参考書・参考資料等

知的障害特別支援学校の自立活動の指導（全国特別支援学校知的障害教育校長会著、ジアース教育新社）

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示、文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月、文部科学省）

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月、文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月、文部科学省）

学生に対する評価

規定の出席数以上の者に対して、定期試験（50％）、毎回の授業後の小レポート（50％）の成績に基づき評価を行う。

授業科目名： 肢体不自由と教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安藤 隆男 担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：肢、含む領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
第一欄（基礎理論）の科目との関連を踏まえ、本授業では肢体不自由教育に関わる教育課程及び指導法に関わる科目として、歴史・制度、教育課程の編成、肢体不自由教育の現状と今日的課題の3つから内容を構成する。これらの内容の学修を通して、とくに肢体不自由教育における教育課程の編成や自立活動の指導に関わる考え方の理解を深めるとともに、授業の実施に架橋するための授業のデザインの具体的な手続き、方法を身につける。			
授業の概要			
本授業は、1. 肢体不自由教育の歴史・制度、2. 肢体不自由教育における教育課程の編成、3. 肢体不自由教育の現状と今日的課題の3部から内容を構成する。近年、障害の重度・重複化、多様化が顕在化する肢体不自由教育において求められる専門性との関連から、各回の授業で取り上げる内容をkey wordsとして具体的に示す。 上記の到達目標を達成し、学習者のその後の主体的な学びをエンカレッジするために、授業形式として講義のみならず積極的に演習や実習を導入する。			
授業計画			
<第1部 肢体不自由教育の歴史・制度>			
第1回：肢体不自由教育の歴史・制度Ⅰ（欧米における肢体不自由教育の萌芽と展開） key words; 欧米における整形外科の発展、クリュッペルハイム、公教育の制度化と肢体不自由教育の位置づけ)			
第2回：肢体不自由教育の歴史・制度Ⅱ（戦前のわが国における肢体不自由教育の萌芽） Key words; 整形外科の導入、柏学園、東京市立光明学校、高木憲次、整肢療護園			
第3回：肢体不自由教育の歴史・制度Ⅲ（肢体不自由の定義とその変遷） key words; 肢体不自由の用語の案出、医学的定義、教育上特別な取扱を要する児童生徒の判別基準について、教育における定義の変遷、肢体不自由の起因疾患とその推移			
第4回：肢体不自由教育の歴史・制度Ⅳ（戦後の肢体不自由教育の成立と養護学校教育の義務化） key words; 公立養護学校整備特別措置法、脳性まひ、障害の重度・重複化とその要因、養護学校教育の義務化			
<第2部 肢体不自由教育における教育課程の編成>			

第5回：特別支援学校における教育課程の編成の実際Ⅰ（教育課程編成の考え方）

key words;教育課程の定義、関係の法令と教育課程の基準、教育課程編成の主体、カリキュラムマネジメント

＊第一欄の基礎理論の科目との関連を踏まえて内容を取扱う

第6回：特別支援学校における教育課程の編成の実際Ⅱ（障害の重度・重複化、多様化に対応した教育課程）

key words;児童生徒の障害の重度・重複化、学校教育法施行規則第130条、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（重複障害者等に関する教育課程の取扱い、授業時数）

＊第一欄の基礎理論の科目との関連を踏まえて内容を取扱う

第7回：特別支援学校における教育課程の編成の実際Ⅲ（特別支援学校における教育課程編成の実際）

key words;学校教育目標の設定、教育内容の組織化、授業時数の設定

＊演習形式：特別支援学校で編成された教育課程の資料を収集し、その特徴について小集団で協議

第8回：小・中学校の特別支援学級、通級による指導における教育課程の編成と実際

key words;小学校学習指導要領等、特別の教育課程、自立活動、個別の指導計画、センター的機能

＊第一欄の基礎理論の科目との関連を踏まえて内容を取扱う

第9回：自立活動の指導における個別の指導計画作成の理論と方法

key words;肢体不自由教育における自立活動の意義、個別の指導計画作成におけるプロセスモデルの考え方と方法論、説明責任accountability

＊第一欄の基礎理論の科目との関連を踏まえて内容を取扱う

第10回：自立活動の指導における個別の指導計画作成の実際

key words;個別の指導計画作成の実際、実態把握、指導すべき課題の抽出、指導目標・内容の設定

＊実習形式：プロセスモデルの考え方と手続きに基づき、脳性まひの事例映像を用いて、実態把握、指導すべき課題の抽出、指導目標・内容の設定を小集団により協働的に実施する。作成の成果と課題については、グループごとに協議し、発表する。

key words;実態把握、指導すべき課題、指導目標・指導内容

＜第3部 肢体不自由教育の現状と展望＞

第11回：肢体不自由教育の現状Ⅰ（特別支援学校・特別支援学級・通級による指導の形態）

key words;特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の現状

第12回：肢体不自由教育の現状Ⅱ（特別支援学校における医療的ケア）

key words;医療的ケアとは、医学的・法律学的整理、医療的ケアの現状

第13回：肢体不自由教育の現状Ⅲ（特別支援学校におけるセンター的機能）

key words;センター的機能とは、センター的機能の現状と課題、

第14回：肢体不自由教育の現状Ⅳ（教科指導の実際）

key words; 脳性まひの障害特性、教科指導上の配慮事項、自立活動の時間における指導との関連

第15回：肢体不自由教育の現状Ⅴ（自立活動の指導の実際）

key words; 重度・重複障害児の自立活動の時間における指導

定期試験は実施しない。

テキスト

「よくわかる肢体不自由教育」（安藤隆男・藤田継道編著、ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

「新たな時代における自立活動の創成と展開～個別の指導計画システムに着目して～」（安藤隆男著、教育出版）

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省）

学生に対する評価

第1部の授業終了後に提出するレポート（30％）、第2部の授業終了後に提出するレポート（50％）、第2部の演習・実習における協議への参加状況（20％）

授業科目名： 病弱と教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中 亮
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：病、含む領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標			
授業で解説した病弱・身体虚弱児に関する教育の教育課程・指導法についての知識や技能を理解した上で獲得することができる。【知識・技能】			
授業で解説した病弱・身体虚弱児に関する教育の教育課程・指導法についての知識や技能を理解した上で獲得することができる。【思考力・判断力・表現力】			
授業の概要			
小児医療の進歩の中で、これからの特別支援教育・病弱・身体虚弱教育に求められている役割や実践的課題について学ぶ。入院の短期化・頻回化により、病弱特別支援学校や病院内学級に加え、近年では小・中学校にも多くの病気の子どもたちが学んでいる。そこで、全て教職員にとって、病弱・身体虚弱教育についての知識や理解をもつことが重要になっていると言える。その点について念頭におきながら、小児がん・腎疾患等による長期療養の子どもや慢性疾患・晩期合併症等による生活や運動等に配慮が必要な子ども、精神疾患や心身症の配慮が必要な子どもなどのための教育課程・指導法などの基本的な知識の解説を中心に、事例の検討、合理的配慮、ICT、キャリア教育、多職種協働などの最近の注目すべきトピックなどを取り上げる。			
授業計画			
第1回：病弱・身体虚弱教育の制度と歴史的経緯			
第2回：病弱・身体虚弱教育の教育課程編成・学習指導要領との関連			
第3回：病弱児に対する個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成とその意義の理解			
第4回：病弱・身体虚弱教育の対象疾患と指導法			
第5回：病弱・身体虚弱児の特性理解と授業設計（活動量や時間の適切な設定、教材・教具の工夫）			
第6回：病弱・身体虚弱特別支援学級（院内学級）の実践（入院～復学までの事例の検討）			
第7回：特別支援学校（病弱）の実践（教科指導・センター的機能）			
第8回：小学校等における病弱・身体虚弱児教育①（合理的配慮・通級による指導・校内支援体制）			
第9回：小学校等における病弱・身体虚弱児教育②（健康教育・がん教育・キャリア教育）			
第10回：病弱教育における自立活動の教育課程上の位置付けと内容の理解、学習指導案の作成			
第11回：病弱・身体虚弱教育とICT技術（間接体験・疑似体験・仮想体験・遠隔教育）の発展			
第12回：特別支援教育コーディネーターを中心とした「医療・福祉・教育の多職種協働」で取り組			

む医療的ケア児・家族支援

第13回：終末期（ターミナル・ケア）の子どもたちへの教育とその意義

第14回：精神疾患や心身症の子どもたちへの指導法と教育的配慮

第15回：これからの病弱・身体虚弱児教育（母国語や貧困等の問題による特別な教育的ニーズのある病気の子、知的障害等の他の障害と病気とを併せ持つ病気の子への指導・支援を含む）

定期試験

テキスト

標準「病弱児の教育」テキスト（一般社団法人日本育療学会編著、ジアース教育新社）

特別支援教育のための障害理解（濱田豊彦監修・東京学芸大学特別支援科学講座編著、金子書房）

参考書・参考資料等

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月公示 文部科学省）

病気の子どもの教育支援ガイド（独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所編著、ジアース教育新社）

特別支援学校の学習指導要領を踏まえた 病気の子どものガイドブック（全国特別支援学校病弱教育校長会編著、ジアース教育新社）

特別支援学校学習指導要領等を踏まえた 病気の子どものための教育必携（全国特別支援学校病弱教育校長会編著、ジアース教育新社）

学生に対する評価

学期末筆記試験【知識・技能】（70%）

学期末レポート・授業態度・ふりかえり【思考力・判断力・表現力】（30%）

授業科目名： 特別支援教育実践演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4 単位	担当教員名： 椎木 久夫 担当形態：単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知、含む領域：肢・病)		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育の教育現場で役立つ実践的指導力について理解を深める。			
授業の概要 障害児の特性，授業展開に必要な事柄についての理論的講義と実際の授業観察をとおして授業づくりのイメージを作り，さらに授業づくりに必要な個別の指導計画，学習指導案の作成，そして模擬授業を組み合わせ「教育現場ですぐ役立つ」実践的指導力を身につける。また，特別支援教育は，複数指導体制での活動が多いので，実践演習はグループで進める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（目標・授業計画）講義：特別支援学校の授業 第2回：特別支援学校の生活 第3回：特別支援学校の教育課程と授業実践①教科・領域別の指導 第4回：特別支援学校の教育課程と授業実践②各教科等を合わせた指導 第5回：指導案の構造と作成の手順・考え方①題材の設定 第6回：指導案の構造と作成の手順・考え方①目標の設定 第7回：指導案の構造と作成の手順・考え方②授業展開 第8回：指導案の構造と作成の手順・考え方②評価 第9回：模擬授業の進め方 模擬授業の実際①（グループの検討） 第10回：模擬授業の進め方 模擬授業の実際②（グループの編成） 第11回：模擬授業内容の検討①教科等の決定 第12回：模擬授業内容の検討②授業内容の決定 第13回：模擬授業の指導案作成①個別の指導計画の作成 第14回：模擬授業の指導案作成②授業過程の作成 第15回：特別支援学校授業参観（教育実習予定校）①授業参観 第16回：特別支援学校授業参観（教育実習予定校）②担当教員指導 第17回：模擬授業の授業準備 第18回：模擬授業の教材作り 第19回：模擬授業①第1班による実践			

第20回：研究授業①第1班に対する検討会

第21回：模擬授業②第2班による実践

第22回：研究授業②第2班に対する検討会

第23回：模擬授業③第3班による実践

第24回：研究授業③第3班に対する検討会

第25回：模擬授業④第4班による実践

第26回：研究授業④第4班に対する検討会

第27回：模擬授業⑤第5班による実践

第28回：研究授業⑤第5班に対する検討会

第29回：まとめ：特別支援学校の授業

第30回：まとめ：特別支援学校の生活

定期試験

テキスト

特になし。自作資料印刷配布。

参考書・参考資料等

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示、文部科学省)

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月、文部科学省)

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)(平成30年3月、文部科学省)

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月、文部科学省)

学生に対する評価

規定の出席数以上の者に対して、定期試験(50%)、毎回の授業後の小レポート(50%)の成績に基づき評価を行う。

授業科目名： 発達障害心理検査法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 久保（下山田） 愛恵 担当形態：単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：発達、含む領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 アセスメントの概要や分析、解釈の方法に関する知識を身に付け、自閉スペクトラム症や注意欠如多動性障害、学習障害などの発達障害児および知的障害児の生理・病学的要因により生じる感覚・認知・行動特性といった一連の心理学的特徴に関する実態を把握できるようにする。また仮想事例を通して、アセスメントの結果を踏まえ、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成することから、家庭・関連機関の連携の重要性を理解する。			
授業の概要 発達障害児や知的障害児は、その特性上、個人によって大きく状態像が異なるため、丁寧な実態把握が必要となる。本講義では、自閉スペクトラム症や注意欠如多動性障害、学習障害などの発達障害および知的障害児の病理・生理学的要因により生じる心理的特徴を把握するためのアセスメントについて概説する。またアセスメントの結果から把握できる発達障害児および知的障害児の感覚・認知・行動特徴について解説する。そして、仮想事例を用いてアセスメントの結果に基づいた個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成することから、教育実践へのアセスメントの活かし方や家庭・関連機関との連携の在り方について学ぶ。			
授業計画 第1回：心理検査の基礎的事柄（1）検査法の種類 第2回：心理検査の基礎的事柄（2）評価の基礎的事柄 第3回：ビネー式知能検査（1）概要と検査の実施 第4回：ビネー式知能検査（2）分析と解釈 第5回：ウェクスラー式知能検査（1）概要と検査の実施 第6回：ウェクスラー式知能検査（2）分析と解釈 第7回：DN-CAS（1）概要と検査の実施 第8回：DN-CAS（2）分析と解釈 第9回：K-ABC 2（1）概要と検査の実施 第10回：K-ABC 2（2）分析と解釈 第11回：質問紙法による評価ー知的障害・自閉スペクトラム症・注意欠如多動性障害・学習障害の			

評価ー

第12回：面接法による評価

第13回：アセスメントの結果を踏まえた個別の指導計画の作成

第14回：アセスメントの結果を踏まえた個別の教育支援計画の作成

第15回：まとめ

テキスト

これからの発達障害のアセスメント：支援の一步となるために．柘植政義 監修．金子書房．

参考書・参考資料等

- 1) 日本版WISC-IVによる発達障害のアセスメント - 代表的な指標パターンの解釈と事例紹介 - ．上野一彦・松田修・小林玄・木下智子．日本文化科学社．
- 2) エッセンシャルズ KABC-IIによる心理アセスメントの要点．藤田和彦・石隈利紀・青山真二・服部環・熊谷恵子・小野順平 監修．丸亀出版．
- 3) 日本版DN-CASの解釈と事例．前川久男・中山健・岡崎慎治．日本文化科学社．

学生に対する評価

授業内のアセスメントに関するワークシート（50％）・授業内で作成する個別の指導計画および個別の教育支援計画の内容（50％）

授業科目名： 重度重複障害と教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮地 弘一郎 担当形態：単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：重複)		
授業のテーマ及び到達目標 重度重複障害教育には、特別なニーズを持つ全てのこどもの教育の原点となる要素が集約されている。この授業では、重度重複障害の概念と、その複雑で重篤な臨床像を理解し、また実態把握と教育支援の方法を習得する。 ＜到達目標＞ 幼児・児童・生徒の重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校の教育実践に即した教育課程編成の方法とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。具体的には以下の点について習得する。 1. 知識と技能 (1) 重複障害の概念に関する基本的な知識を習得している。 (2) 重複障害児、重度重複障害児の臨床像及び教育・生活上の制約要因を理解している。 (3) 発達援助の基礎知識と技法、重度重複障害児の実態把握・教育内容・方法、これらを踏まえたカリキュラム・マネジメントの基本を習得している。 2. 思考力・判断力・表現力 (1) こどもの姿から、障害の特性や援助をイメージし、ニーズや環境に即した教育課程編成、授業・教材研究ができる。 (2) 医療、教育、福祉等の関連領域の専門家と、重度重複障害に関する基本的な事項について支障なくコミュニケーションを行うことができる。			
授業の概要 最初に重複障害と重度重複障害の概念について解説した上で、主に次の2つの内容について講義と演習を行う。 ○重度重複障害児の理解…発達心理・生理学的メカニズムとその病理について ○重度重複障害児の教育課程…教育課程の基本事項、実態把握からの授業・教材研究			
授業計画			

第1回：重複障害とは
 第2回：重複障害の制約要因
 第3回：様々な重複障害の理解と教育
 第4回：重度重複障害児の理解(1)脳障害と脳発達 —「育脳」のメカニズムと援助視点—
 第5回：重度重複障害児の理解(2)能動性の発達 — けいけいから始まる遊びと学習 —
 第6回：重度重複障害児の理解(3)認知発達と運動発達
 第7回：重度重複障害児の理解(4)言語発達と思考・判断・表現
 第8回：重度重複障害児の教育課程(1)教育目標、教育課程
 第9回：重度重複障害児の教育課程(2)カリキュラム・マネジメント、個別の指導計画
 第10回：重度重複障害児の教育課程(3)自立活動と教科
 第11回：重度重複障害児の教育課程(4)環境因子と発達 — ICFモデルからの授業づくり —
 第12回：重度重複障害児の教育課程(5)拡大・代替コミュニケーション (AAC) の活用
 第13回：重度重複障害児の教育課程(6)教材制作演習
 第14回：重度重複障害児教育の関連事項(1)生理心理学的アプローチ
 第15回：重度重複障害児教育の関連事項(2) 超重症児・医療的ケア児の今日的課題
 定期試験

テキスト

教科書は指定しない。授業時に資料を配布する。

参考書・参考資料等

写真で分かる重症心身障害児(者)のケア 人としての尊厳を守る療育の実践のために (鈴木康之・舟橋満寿子監修 八代博子編著、インターメディカ)

障害の重い子どものコミュニケーション評価と目標設定 (坂口しおり著、ジアース教育新社)
 重症心身障害児の認知発達とその援助—生理心理学的アプローチの展開 (片桐和雄・北島 善夫・小池 敏英共著、北大路書房)

学生に対する評価

筆記試験 (50%) および提出課題 (50%) により評価する。

授業科目名： 発達障害と教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 久保（下山田） 愛恵、三橋 翔太 担当形態：オムニバス
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 （中心領域：発達）		
授業のテーマ及び到達目標			
発達障害児の病理・生理学的特徴と、それにより発生する感覚・認知・行動といった心理学的特性に関する知識を身に付ける。こうした知識を踏まえ、各教科等の「困難」への「指導上の工夫の意図」や「個に応じた手立て」、自立活動の内容と関連させた教育実践の在り方について理解する。また以上の教育実践のために、家庭や関連機関とどのように連携していくのかを考える。			
授業の概要			
現在、幼稚園および小学校における発達障害児への対応は喫緊の課題とされている。本講義では、発達障害児の脳機能に関わる病理・生理学的特徴について概説するとともに、それらに関連して生じる感覚・認知・行動特性・二次的障害についても取り上げる。こうした一連の特徴により生じる各教科等の「困難」への「指導上の工夫の意図」や「個に応じた手立て」に加え、自立活動や自立活動の内容との関連を踏まえた各教科等の学習指導案の立案方法を解説する。また発達障害児の在籍する通級や特別支援学級の教育課程の内容についても解説する。加えて、こうした教育実践を、家庭や関連機関との連携の中で、どのように実現していくかについても取り扱う。			
授業計画			
第1回：発達障害に関する基礎的事項（1）脳機能の生理・病理学的特徴（担当：三橋 翔太）			
第2回：発達障害に関する基礎的事項（2）心理・生理・病理学的特徴の関係（担当：三橋 翔太）			
第3回：学習障害（1）定義と認知・行動・感覚面の特徴（担当：三橋 翔太）			
第4回：学習障害（2）各教科等および自立活動における支援・指導・配慮の実践（担当：三橋 翔太）			
第5回：注意欠陥多動性障害（1）定義と認知・行動・感覚面の特徴（担当：久保（下山田） 愛恵）			

第6回：注意欠陥多動性障害（2）各教科等および自立活動における支援・指導・配慮の実践（担当：久保（下山田） 愛恵）

第7回：自閉症スペクトラム障害（1）定義と認知・行動・感覚面の特徴（担当：久保（下山田） 愛恵）

第8回：自閉症スペクトラム障害（2）各教科等および自立活動における支援・指導・配慮の実践（担当：久保（下山田） 愛恵）

第9回：言語障害・情緒障害（1）定義と認知・行動・感覚面の特徴（担当：三橋 翔太）

第10回：言語障害・情緒障害（2）各教科等および自立活動における支援・指導・配慮の実践（担当：久保（下山田） 愛恵）

第11回：発達障害と二次障害（担当：三橋 翔太）

第12回：発達障害児の認知面・行動面のアセスメント（担当：久保（下山田） 愛恵）

第13回：発達障害児への指導・支援の実践（1）通級や特別支援学級の教育課程（ICT・教具の利用を含む）（担当：三橋 翔太）

第14回：発達障害児への指導・支援の実践（2）個別の指導計画・個別の教育支援計画（家庭・関連機関との連携）（担当：久保（下山田） 愛恵）

第15回：まとめ（担当：久保（下山田） 愛恵）

定期試験

テキスト

発達障害の心理学 特別支援教育を支えるエビデンス. 北洋輔・平田正吾 編. 金子書房.

参考書・参考資料等

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)

学生に対する評価

試験（85%）・授業内でのワークシート（15%）

授業科目名： 言語の発達と障害	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江尻（篠原） 桂子 担当形態：単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発達、含む領域：知、聴)		
授業のテーマ及び到達目標： 言語の発達と障害を理解する。到達目標としては、1) 言語発達の基礎的事柄を説明できること、2) 障害児における言語面の特徴を説明できることである。			
授業の概要： 言語の障害やコミュニケーションの問題について理解することは、子どもの理解や指導支援にとって重要である。とりわけ知的障害児や自閉症スペクトラム障害児におけるこれらの問題について理解することは、より良い指導・支援を考えるにあたって不可欠である。本講義では、言語障害やコミュニケーションの問題を理解するため、まず言語発達に関わる基礎的事柄を概観した後に、様々な発達障害における言語面の特徴を見ていく。			
授業計画			
第1回：授業の概要と到達目標			
第2回：言語発達の基礎的事柄（1）ヒトの進化と言語の成立			
第3回：言語発達の基礎的事柄（2）言語の発達を支える生物学的基礎・環境要因			
第4回：言語発達の基礎的事柄（3）乳児期における初期言語発達			
第5回：言語発達の基礎的事柄（4）幼児期における初期言語発達			
第6回：言語発達の基礎的事柄（5）言語発達を支える認知発達			
第7回：言語発達の基礎的事柄（6）言語発達を支える応答的環境			
第8回：言語障害の類型と症状（1）知的障害と言語（語彙・文法）の障害			
第9回：言語障害の類型と症状（2）発声・発話の障害（吃音・構音障害）			
第10回：言語障害の類型と症状（3）コミュニケーションの障害と選択的緘黙			
第11回：言語障害の類型と症状（4）コミュニケーションの障害と自閉スペクトラム症			
第12回：その他の言語障害（1）学習障害・聴覚障害			
第13回：その他の言語障害（2）母語の習得と第二言語習得			
第14回：言語を育む環境を考える			
第15回：まとめ			

定期試験
テキスト よくわかる乳幼児心理学（内田伸子編著、ミネルヴァ書房）
参考書・参考資料等 よくわかる言語発達（岩立志津夫・小椋たみ子編著、ミネルヴァ書房）
学生に対する評価 授業後に提出するコメントペーパーと小テストの成績（30％）および学期末試験の成績(70%) により評価します。

授業科目名： 視覚・聴覚障害と教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田原 敬
			担当形態：単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (含む領域：視，聴)		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 感覚障害の病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解できる			
2) 観察や検査を通して幼児，児童又は生徒一人一人の障害特性と発達を把握することが理解できる			
3) 感覚障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解できる			
4) 自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計ができる			
5) 家庭や保健，医療，福祉及び労働機関との連携の重要性について理解できる			
授業の概要			
感覚障害のうち，視覚障害及び聴覚障害のある児童生徒の特性や教育方法について，感覚障害のない児童生徒や，他の障害のある児童生徒との比較も行いながら理解を深める。また，授業場面などの具体例も視聴しながら，感覚障害のある児童生徒の学習及び指導の在り方，学習を支援する教材教具等について考える。			
授業計画			
第1回：シラバスを用いたガイダンス			
第2回：特別支援教育の歴史と感覚障害児教育			
第3回：感覚障害と情報アクセシビリティの問題			
第4回：感覚障害と環境要因			
第5回：感覚障害児が学ぶ場			
第6回：視覚の生理・心理と病理			
第7回：視覚障害児の特徴と配慮事項			
第8回：視覚障害児の支援（自立活動を中心に）			
第9回：聴覚の生理・心理と病理			
第10回：聴覚障害児の特徴と配慮事項			

第11回：聴覚障害児の支援（自立活動を中心に） 第12回：視覚障害教育の実際（映像視聴&グループワーク） 第13回：聴覚障害教育の実際（映像視聴&グループワーク） 第14回：視覚障害教育・聴覚障害教育における課題（多職種連携を中心に） 第15回：まとめ 定期試験は実施しない
テキスト 特に指定しない
参考書・参考資料等 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（平成21年6月 文部科学省） 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（平成21年6月 文部科学省） 特別な支援を必要とする子どもの理解と教育（茨城大学教育学部障害児教育教室・茨城大学附属特別支援学校、かもがわ出版）
学生に対する評価 最終レポートによる評価（80%）及び各回の感想（20%）。